

# 第4次鈴鹿市地域福祉活動計画

## 評価シート

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会

## 目次

○評価について	・・・	P1
○基本目標 1 地域ごとの福祉課題に対する取り組みの支援	・・・	P2
計画 1－1 地域計画における福祉に関する取り組みの推進		
○基本目標 2 福祉啓発事業の推進	・・・	P6
計画 2－1 認知症の理解を深める		
計画 2－2 ふくしの学びの場をつくる		
計画 2－3 かりんちゃん運営委員会の開催		
○基本目標 3 災害時における支援体制の強化	・・・	P11
計画 3－1 災害ボランティアセンターと地域との連携		
計画 3－2 災害ボランティアコーディネーターの養成		
○基本目標 4 地域の困りごとへのアプローチとその対応	・・・	P15
計画 4－1 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の設置		
計画 4－2 気軽に相談できる総合相談窓口の開設		
○基本目標 5 多様なニーズのための支援体制づくり	・・・	P19
計画 5－1 多文化共生を目指す地域活動の支援		
計画 5－2 多職種連携による権利擁護ネットワークの推進		

## ○ 評価について

毎年、評価推進委員会を開催し単年度評価を行う。

評価については、0から5までの6段階とし、年度ごとに行う。評価については、予め決められた単年度目標の達成度を事務局会議で協議し、事務局評価を行う。事務局が作成した事業報告をもとに、各評価推進委員より評価をいただき、最終評価とする。合わせて評価推進委員より実施結果等に対する意見をいただき事業の見直しを行うと共に、次年度目標に反映する。

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

### 3. 評価シート

基本目標 1	地域ごとの福祉課題に対する取り組みの支援			
計画 1-1 地域計画における福祉に関する取り組みの推進		令和 2 年度 評価 事務局 委員会 3 3		
事業内容	<p>地域づくり協議会が策定を行う地域計画に掲げられている、住民同士の支え合い活動の実現や、高齢者等の行方不明者を捜索する体制の整備、高齢者や子育て中の親子の居場所づくり、地域の困りごとの解決や支え合い活動の担い手となる福祉委員の創設など、福祉に関する新たな取組を、地域のみなさんと一緒に進めます。</p>			
単年度目標 (ポイント)	内 容	対応数	事務局評価	委員会評価
	① 福祉課題の内容に応じた講座・勉強会を開催する。	10 回	3	3
	② 活動を進める上での課題や問題に対する相談等に対応する。	18 件	3	3
	③ 住民参加型福祉サービス(生活支援)の取り組みを進める。	88 回	3	3
	④ 地域で実施される会議や定例会、サロン、イベント等へ参加し、地域課題やニーズの把握を行う。	210 回	3	3
実施結果	<p>① 福祉課題の内容に応じた講座・勉強会を開催する。</p> <p>行方不明高齢者対策についての勉強会を中心に、住民向けにサロンや生活支援サービス等の説明会を実施。新型コロナウイルス感染拡大防止のためか希望は少なくなったが、回想法などの講座内容の充実を図った。</p> <p>② 活動を進める上での課題や問題に対する相談等に対応する。</p> <p>相談・話し合いを進めるなかで、災害時要援護者マップづくりや、行方不明者捜索ネットワーク検索模擬訓練の実施につながった。また、コロナ禍においても自分たちにできることをしたいとの想いから、市内高校の生徒とまちづくり協議会が協働し、見守り対象高齢者へ手づくりマスクの配付を行うこともできた。他にも、助け合いの輪を広げる活動や、耕作放棄地の活用、地域包括支援センターが抱える個別のケース等の問題についても相談があり、関連機関等とも連携を図りながら、解決に向けて支援を行った。</p> <p>③ 住民参加型福祉サービス(生活支援)の取り組みを進める。</p> <p>令和 2 年度に、新たにサービスを開始された「幸ネット(国府地区まちづくり協議会)」、「ささえあいま庄野(庄野地区まちづくり協議会)」の立ち上げ支援や、今後立ち上げを検討されている地区との協議を重ねる。他地区からの視察受け入れや説明会の同行などにも協力を行う。</p> <p>令和元年度より、すでに活動を開始されている「稻生助け愛ネット」、「旭お助け隊」の 2 地区については、月 1 回以上開かれるコーディネーター会や運営委員会に参画し、運営支援や情報共有等を行った。</p>			

④ 地域で実施される会議や定例会、サロン、イベント等へ参加し、地域課題やニーズの把握を行う。

- ・地域で実施される会議(地域づくり協議会 福祉部会、民児協定例会等)への参加…132回
- ・ふれあいいきいきサロンへの訪問…14回
- ・地域イベントへの参加…2回
- ・地域から寄せられる相談に生活支援コーディネーターが聞き取り・対応…62回

これらを通して、地域課題やニーズの把握をし、地域の実情に応じた支援や協力を行った。  
共通する課題等については、協議体を通して情報共有を行った。

#### ○ その他

- ・コロナ禍で活動を自粛するサロンも増えているなか、感染予防を図りつつサロンを開催できるよう、当協議会にて募集した「新型コロナ対策緊急助け愛募金」より感染予防セットを配布し、安心して開催しやすい環境を整備した。

- ・民生委員や地区社協などの関係者・専門職等と連携を図りながら、誰もが安心して暮らせるまちづくりに向けて一緒に活動してもらえる人(福祉委員)を制度化し、地域の仕組みとして機能できるよう、設立支援を行った。(天名・若松地区)

#### 【地域課題の解決に向けた主な取り組み進行状況】

内 容	令和元年度	令和2年度
・地域の支え合いグループの立ち上げ	2	4 (+2)
・身近な場所での居場所(サロン)づくり	91	107 (+16)
・福祉委員の創設	1	3 (+2)
・行方不明者捜索ネットワークの整備	0	1 (+1)
・災害時助け合いマップの作成	0	1 (+1)

評価と 今後の課題 (事務局)	地域計画と地域づくり協議会の取り組みが連動している地域だけない。福祉課題については、日々目まぐるしく変化するため、地域計画以外の小地域福祉活動におけるニーズが予見される。既存の地域計画に沿って活動推進を図ることと同時に、こうした新たな地域の福祉ニーズに合わせた取り組みにも柔軟に対応したい。
令和3年度 目標	① 福祉課題の内容に応じた講座・勉強会を開催する。 ② 活動を進める上での課題や問題に対する相談等に対応する。(令和2年度目標②を含む) ③ 地域で実施される会議や定例会、サロン、イベント等へ参加し、地域課題やニーズの把握を行う。 ④ 地域包括支援センター(基幹型含む)、認知症地域支援推進員等との連携を進める。

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

(評価推進委員)

コメント

- ・コロナ禍で地域福祉活動が難しい中、福祉委員が創設され、できることから取り組みができている。
- ・生活支援の取り組みは各地域で急務での取り組みとならないように。
- ・福祉委員は必要であり自治会長の協力のもと進めているが市内全体に広がらない。全面に出してください。
- ・地域づくり協議会の発足後、迅速に地域課題に向けた取り組みが開始されている地域もあれば、どのように活動を展開していけばよいか悩んでおられる地域もあるように感じます。また計画は地域に発信しているものの、実行が円滑に進まないという声もきました。②については地域差を感じますが、計画実行が進んでいないという協議会については、その原因を確認し助言を行うなどして住民の負担感を払拭していく作業が必要かと思います。いずれにしても時間がかかるものかと思いますが、①②④の活動を通じてサポートしていただけるものと考えます。
- ・コロナ禍で活動を自粛するサロンも多い中、感染予防を図りつつ開催しやすい環境づくりを工夫した点は良かったと思います。
- ・広い地域の中での問題解決は難しいため、より身近な地域での懇談会や情報共有が必要だと考えます。
- ・自治会活動が充実していても住民参加型福祉サービスの取り組みについては地域により理解が得られにくいところもあります。今後の課題と感じています。
- ・住民参加型福祉サービスの普及が、地域包括ケア成功のカギを握っていると考えます。現状の地域支援体制の充実を希望します。
- ・コロナ禍で難しいですが推進してください。
- ・コロナ禍で活動に制約がある中で、できることに取り組まれている。住民参加型福祉サービスについては、その取り掛かりとなる支え合い事業の支援を順調に進められており、要支援者等の支援を含めた生活支援サービスへの発展を期待します。また、地域課題やニーズを細かく把握するために、サロン増設のさらなる支援も期待します。
- ・関係機関(自治会、まち協等)ともっと交流をしてほしい。
- ・Covid19 災禍下にあって、基本的にできうることに取り組んでいると判断される。  
回想法など勉強会開催を継続している。生活支援コーディネーターの訪問相談やサロン回数を増やす、ネットワーク整備・災害マップ作成など、積極的に取り組んでいると考える。

## 質問

- ・令和3年度目標に、「地域包括支援センター・認知症地域推進員との連携を進める」とあります。連携することは手段であり、連携することにより、どんな効果を期待するのか?ということを目標にすべきではないでしょうか。

## (事務局の回答)

- ・生活支援コーディネーターとともに、地域包括支援センター(基幹型含む)の職員や認知症地域推進員が、まちづくり協議会の取り組みや定例会に参画することで、認知症の理解が進み、行方不明者捜索ネットワークの整備等の充実につながるものと考える。

令和3年度の目標を「まちづくり協議会の取り組み及び定例会等へ、地域包括支援センター・認知症地域推進員が参画する」と修正し、基本目標④のうち、特に、生活支援コーディネーターと協働して 対応したケース数を結果として報告したい。

## (事務局)

### コメント

- ・地域ごとに課題が異なることから取り組みにバラつきがある。今課題になっていない地域でも先を見越した取り組みが必要であり、他地区の取り組みを参考にできるよう、地域をつなげていきたい。

## 福祉啓発事業の推進

## 計画2-1 認知症の理解を深める

令和2年度評価	
事務局	委員会
3	3

事業内容	認知症についての正しい理解を持ち、認知症の方やサポートする機会をつくり、地域全体で認知症の方を支えるやさしい地域づくりに取り組む。			
単年度目標 (ポイント)	内 容		事務局評価	委員会評価
	① キッズサポーター養成講座の開催		3	3
	② 認知症カフェの開催		3	3
実施結果	③ 認知症等の行方不明者の搜索訓練			
	<p>① キッズサポーター養成講座の開催</p> <p>コロナ禍のため、認知症サポーター養成講座(キッズサポーター養成講座含む)の開催を令和2年4月～7月まで市全域で自粛した。8月以降は感染症対策の実施等の条件を満たした場合に開催となった。オンラインの活用も行ったが、全体として養成者数は前年度から減少した。</p>			
	キッズサポーター養成講座	実施回数(回)	受講者(名)	
		令和1年度	13	令和1年度 707
	認知症サポーター養成講座	令和2年度	2	令和2年度 61
		令和1年度	73	令和1年度 2,872
		令和2年度	24	令和2年度 1,065
※参考 オンラインでの開催(R2年度):鈴鹿大学(84名)、鈴鹿医療科学大学(556名)				
評価と 今後の課題 (事務局)	② 認知症カフェの開催			
	<p>既存の認知症カフェに加えて、新しい取り組みとして認知症の方やその家族が集まり、お互いの気持ちを共有し交流できる場として「おれんじルーム」の開催準備をしていたが、コロナウイルス感染防止のため、令和2年度は中止となる。※令和3年6月より開催予定。</p>			
	③ 認知症等の行方不明者の搜索訓練			
	<p>各地区で開催に向けて検討はされていたが、コロナウイルス感染防止のため中止となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度実績:訓練実施 1地区(稻生地区)</li> </ul>			
	<p>訓練実施に向け準備中 3地区(国府・一ノ宮・天名地区)</p>			
令和3年度 目標	① キッズサポーター養成講座の開催			
	② 認知症カフェ(おれんじルーム)の開催、認知症支援ボランティアの養成			
	③ 認知症等の行方不明者の搜索訓練			

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

## 計画2-2 ふくしの学びの場をつくる

令和2年度 評価	
事務局	委員会
4	4

事業内容	地域のみなさんがふくしについて学び、考え、参加できるきっかけづくりのため、色々なテーマの講演会や地域での出前講座などを開催する。						
単年度目標 (ポイント)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>事務局評価</th> <th>委員会評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① ふくし講演会や出前講座の開催</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	事務局評価	委員会評価	① ふくし講演会や出前講座の開催	4	4
内 容	事務局評価	委員会評価					
① ふくし講演会や出前講座の開催	4	4					
実施結果	<p>① ふくし講演会や出前講座の開催</p> <p>コロナ禍のため、講演会や出前講座等が例年通りの開催が困難となり、代替策として、オンラインや動画配信、資料(パンフレット作成・配布)等を通じて、地域住民がふくしについて学び、考え、参加できるきっかけづくりを行った。</p> <p>(令和2年度の主な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「鈴鹿ふくし大学」※YouTube 鈴鹿市公式サイトにて配信             <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ:「ご存じですか?在宅医療」/講師:門間 文彦氏(みえ在宅医療クリニック院長)</li> <li>・配信期間:令和3年3月18日~ 現在公開中</li> <li>・閲覧回数:487回(令和3年5月末時点)</li> </ul> </li> <li>○「地域福祉講演会」※リーフレットの作成、配布             <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ:「みんなで取り組む地域福祉!」(市内の地域福祉活動の紹介)</li> <li>・配布方法:鈴鹿市と鈴鹿市社会福祉協議会のHP上公開と、紙媒体で2,000部配布</li> <li>・配布先:市内福祉協力校、民生委員児童委員協議会連合会、ボランティア連絡協議会、地区市民センター、地域包括支援センター等へ配布</li> </ul> </li> <li>○「市民向け成年後見講座」※オンライン(zoom)と会場での同時開催             <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ:「ご存じですか?成年後見制度」</li> <li>・開催日時:令和3年3月20日(土) 13:30~15:30</li> <li>・参加者数:27名</li> </ul> </li> </ul>						
評価と 今後の課題 (事務局)	コロナ禍のため、講演会・出前講座等、これまで通りの会場での開催が困難となり、代替策での開催・啓発を行った。今後も感染の収束が不透明なため、オンライン等を積極的に活用し開催すると共に、地域のみなさんがコロナ禍でも参加しやすい方法を検討する必要がある。						
令和3年度 目標	<p>① オンライン等を活用した講演会や出前講座の開催</p>						

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

## 計画2-3 かりんちゃん運営委員会の開催

令和2年度 評価	
事務局	委員会
3	3

事業内容	身近にあるふくしを地域のみなさんにわかりやすく伝えるために、イメージキャラクターを活用したふくし活動をみんなで考え、取り組む。		
単年度目標 (ポイント)	内 容	事務局評価	委員会評価
	① かりんちゃん運営委員会(年3回)を開催	2	2
	② 地域のふくしイベント等に参加	1	2
実施結果	③ 広報活動の見直し(SNSの活用)	4	4
	<p>① かりんちゃん運営委員会(年3回)を開催</p> <p>運営委員会については、学生を中心とした意見交換やイベントの企画等を計画していたが、新型コロナウイルスの影響から、第3次鈴鹿市地域福祉活動計画で結成された委員会をそのまま継続することができず、開催に至らなかった。しかし、市内高等学校とコロナ禍における課題について情報共有し、本会が実施した「緊急助け愛募金」(コロナの影響で生活困窮状態となった方を支援するもの)について、学生主導で企業協力依頼や独自の街頭募金を実施していただいた。</p> <p>また、運営委員会から派生した取り組みとして、新たな一般企業を鈴鹿おもいやりプロジェクト(共同募金)参画に向けて協力をしていただき、協議を重ねた。2年目以降で、より具体的な話し合いへと発展させることとした。</p>		
	<p>② 地域のふくしイベント等に参加</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、着ぐるみ活動を自粛し、状況を見て最低限の参加とした。</p>		
	<p>③ 広報活動の見直し(SNSの活用)</p> <p>情報発信内容や方法を見直し、若年層への発信が弱かったこともあり、TikTok(動画配信)アカウントを作成。その他既に持っていたSNSアカウントにおいても、動画を取り入れるなど、ありきたりな報告にならないように気を付け、様々な団体等ともつながりを持てる体制を心掛けた。</p>		
評価と 今後の課題 (事務局)	不特定多数が集まるイベントへの参加自粛や既存の委員会等について、オンライン等の体制が取れない分については極力行わないこととした。その分、計画通り推進することが出来なかつたため一部形を変えながらできるところを進めることになった。2年目以降はまずは内部で広報委員会を結成し市内企業や学生と話し合いができる場の設置を目指す。		
令和3年度 目標	<p>① かりんちゃん運営委員会の開催(オンライン開催)</p> <p>② SNSを中心とした情報発信の活発化</p>		

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

(評価推進委員)

コメント

- ・コロナ禍のため、認知症等行方不明者捜索訓練に参加できなかったことが残念である。
- ・コロナ禍で遅れ気味であるが、令和3年度は訓練を実施し学びの場をつくっていきたい。
- ・コロナ禍で活動が出来なかつたとは思いますが、活動できない所に声を掛け養成講座等はできるのではないかと思います。
- ・福祉講演会の存在を知らなかつた。多くの方が参加できるような工夫がほしい。
- ・コロナウイルス感染対策の中、計画していた活動を縮小せざるを得ず残念だったと思います。しかしながら中でもオンラインを活用するなど、できることを考えて実施されていた点について評価できるのではないかでしょうか。2-3①では、委員会こそ開催できなかつたようですが、「緊急助け愛募金」などは社会的な課題に直結している取り組みでもあり、福祉教育として意義深いと感じました。また学生にとってはオンライン会議なども当たり前の世代になってくると思いますので、今後も活用されてはいかがでしょうか。
- ・キッズサポーター養成講座については、令和元年度に比べて令和2年度は大幅に減少している。幼少期からの福祉体験や学習の場を提供することで、福祉に対する理解と思いやりの心が育つのではないかと考えます。
- ・広報活動の見直しについては、コロナ禍の中オンライン(SNS)の活用も重要と考えますが、高齢者等はまだネットを活用できる環境になく、パソコンが使えない方、情報を入手することが困難な方への伝達方法を検討することが今後の課題を感じています。
- ・集合スタイルの講座・委員会は、今後オンライン方式への移行することが望ましい。
- ・今の小学生のニーズに合っていますか？法人会では小学生向けの租税教室をしています。参考にしてみてください。
- ・活動計画のパンフレットは非常に読みやすく良いです。次は4コマ漫画を使いもっとわかりやすくし、興味のない方にも伝わるようにしてください。
- ・コロナ禍での課題へ対応するため、助け愛募金を立ち上げるなど、地域や各種団体の協力を得て財源確保にも努められた。おれんじルームの新たな取組を進めていただくとともに、認知症カフェの設置推進及び運営の支援をいただくよう期待します。認知症等の行方不明者の捜索に関しては、地域づくり協議会が主体となった体制が構築できるよう、社協コーディネーターが中心となって働きかけを実施いただいており、さらなる体制強化に向け連携協力をお願いします。
- ・講演会や出前講座など計画回数の設定できるものは目標を立てて進めてはどうでしょう。

- ・コロナ禍で搜索訓練を中止しているが、オンラインを利用して啓発活動、講座を自治会、民生等に参加依頼をしてほしい。
- ・小学校、中学校を通じて子どもたちにも活動状況を連絡すれば保護者にも早く地区の状態(災害時等)を知らせることが出来る。
- ・Covid19 災禍下にあった R2 年と、「平常時」の R 元年とで単純に「数値比較」をすることは困難であり、斟酌の必要性を感じる。特に R2 年4~7月や冬季の「不要不急の外出原則禁止」状態では活動は大幅な制限が求められたものと思う。WEB 対応等を模索した中で、継続実施した点は大いに評価すべきと考える。「搜索実施訓練」や「イベント」は「実施」「集団対面」である以上「我慢と通した仮想」では直接的には実施し得ない。但し、今後あらゆる事態に備え「仮想」を通してでも何らかのかたちで企画実施する方策を考える必要性を教訓として与えられたことは記録すべきといえる。

(事務局)

コメント

- ・コロナの影響でキッズサポーターの開催を中止したが、工夫は足らなかったと言える。小学生等が興味を持てる内容を考えるとともに周知方法についても工夫していきたい。
- ・講演会等の開催周知については市や社協の広報紙を中心としたものであり、全ての方に周知しきれていな。そのため、SNS の活用や内容によっては学生などからも発信できるよう2-3「かりんちゃん運営委員会」のあり方を見直したい。
- ・講座等の回数目標については、必要と思われるため、5-2②も含め目標値を上げたい。

基本目標  
3

災害時における支援体制の強化

計画3-1 災害ボランティアセンターと地域との連携

令和2年度 評価	
事務局	委員会
5	5

事業内容	災害への備えとして、地域と連携した災害ボランティアセンター設置等運営訓練を行う。		
単年度目標 (ポイント)	内 容	事務局評価	委員会評価
	① 災害ボランティアセンター拠点の確保  ② 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施	5  5	5  5
実施結果	<p><b>① 災害ボランティアセンター拠点の確保</b></p> <p>災害ボランティアセンターの拠点の確保について以前より課題であったが、本田技研工業(株)鈴鹿製作所より CSR 活動について相談を受けたことをきっかけに、拠点確保について協議を重ね、令和2年10月、協定締結となった。</p> <p>協定内容は、鈴鹿市にて大規模災害が発生した際、全国・若しくは県内からのボランティアを受け入れるための拠点(ホンダアクティブランド 鈴鹿市住吉町)の提供。また、災害ボランティア活動における資機材の保管場所の提供も協力いただることになった。</p> <p>※CSR とは、企業が組織活動を行うにあたって担う社会的責任で従業員や消費者、投資者環境などへの配慮から社会貢献までの幅広い内容に対して適切な意思決定を行う責任のことである。</p> <p><b>② 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施</b></p> <p>設置・運営訓練を上記の通り協定締結したホンダアクティブランドにて実施することができた。</p> <p>また、他市町のコロナ禍での運営事例を参考に、オンラインも併用した事前受付や人員削減・3密防止・検温・細やかなアルコール消毒等、感染症予防の対策を講じて実施した。</p> <p>加えて、CNS(ケーブルネット鈴鹿)をサテライト(災害ボランティアセンター分所)として通信訓練を実施できたことで、より現実的な災害ボランティアセンター運営に近づけた訓練であった。</p>		
評価と 今後の課題 (事務局)	他市町の災害ボランティアセンターの運営内容や本年度実施した災害ボランティアセンター設置・運営訓練にて、現実の大規模災害に対応できる運営に際し、課題が残った。実際に災害ボランティアを現地まで送り届ける「車輛」の確保が課題であるため、次年度に向け協議を進める必要がある。		
令和3年度 目標	<p>① 災害ボランティアセンター運営に係る「車輛」に関する協定締結 ② 災害ボランティアセンター運営に係る「資機材等」の提供に関する協定締結 ③ 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施</p>		

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

		令和2年度 評価	
		事務局	委員会
計画3-2 災害ボランティアコーディネーターの養成		4	4

事業内容	災害ボランティアセンターと地域をつなぐ、災害ボランティアコーディネーターを養成し、防災活動に取り組むと共に、すでに養成している方へのフォローアップ(継続研修会等の開催)も行います。
単年度目標 (ポイント)	内 容
	① 災害ボランティアコーディネーターの養成 ② 災害ボランティアコーディネーターズの活動の充実
実施結果	<p>① 災害ボランティアコーディネーターの養成</p> <p>令和元年度に開講した、「鈴鹿市災害ボランティアコーディネーター4期生養成講座」を感染症対策に留意し、令和2年度再開したところ、6名の新会員の入会に至った。</p> <p>※災害ボランティアコーディネーターズとは、鈴鹿市災害ボランティアセンターの運営のサポートをいただく方であり、被災者と災害ボランティアの繋ぎ役である。</p> <p>② 災害ボランティアコーディネーターズの活動の充実</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、月1回開催している定例会についても中止を検討したが、短時間での開催やZoomなどのオンラインを活用した役員会の開催により、会員養成について協議できた。</p> <p>また、昨年度より検討していた会のスキルアップ及び活動の充実に向けた部会制について、協議中である。3つの部会(広報、研修・交流、地域連携ネットワーク)の設立を目指している。</p> <p>○各部会活動内容(案) 令和2年度3月31日時点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報部会…各イベントでの鈴鹿市災害ボランティアセンターのPRブースの企画、会員募集用チラシ作成</li> <li>・研修・交流部会…会員向けスキルアップ研修の企画、視察研修会の立案</li> <li>・地域連携ネットワーク部会…地域版災害ボランティアコーディネーターズ養成講座の講座内容の検討、各地区で開催される訓練等のサポート</li> </ul>
評価と 今後の課題 (事務局)	コロナ禍のオンラインでの会議では、会員同士の意見交換を円滑に進めることが難しく、計画の進行に難航した。令和3年度は、4期生の加入から間もないことを考慮し、災害ボランティアコーディネーターズの活動の充実やスキルアップに努めたい。
令和3年度 目標	<p>① 災害ボランティアコーディネーターズのスキルアップ。</p> <p>② 専門部会での広報、研修、地域連携によって、より充実した災害ボランティアセンターの運営に係る活動の充実を図る。</p>

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

(評価推進員)

コメント

- ・(地域での)訓練は実施できなかったが地域住民との連携は取れている。
- ・地域によって温度差がある。水害の被害は無いと思われる地域もボランティアを派遣する地域になる可能性もあり、広く訓練をする必要がある。
- ・3-1①②については大変有意義な取り組みであり自己評価の通りでよいかと思います。実践的訓練は重要であると思いますし、本田技研工業との協定内容も大変重要なものだと感じます。引き続き訓練を重ねていただきつつ、さらなるブラッシュアップを期待します。
- ・3-2①災害ボランティアCの養成において、市内で地域差などはあるのでしょうか。必ずしも住所地や勤務地で括られるものではありませんが、よければ地域に所在する社会福祉施設や介護保険事業所などにも積極的に発信していただき、防災意識を高めてもらうとともに、いざというときに地域とのつなぎ役にならえるよう養成者を増やせるとよいのではないかと思います。
- ・要援護者台帳に掲載されていない要援護者の把握と、その情報をどのように生かしていくか、各関係機関との連携が重要と考えます。また今後はBCPの作成についても行政や各関係機関、地域との連携、協力が不可欠と感じています。災害ボランティアコーディネーターの養成、スキルアップを期待します。
- ・企業側と社会福祉協議会が協定締結し、ボランティアセンター拠点確保できたことは、鈴鹿市市民全体の利益となります。
- ・三重県 DWAT が昨年より組織化されていますので、鈴鹿市においても協力体制の構築をお願い致します。
- ・何か日本一の事をアピールすることで市民一人一人の災害意識を高める。
- ・企業とのコラボによる大規模な拠点確保は大きな成果。さらに同施設で既に運営訓練を実施し、課題の把握もできたことは評価に値する。今後も、様々な状況を想定した運営訓練の継続を期待します。
- ・相談窓口の案内を各公民館やセンターで行ってほしい。
- ・災害ボランティアセンター(以下、災害ボラセン)に関する諸活動については「新型コロナ災禍下だから中止」ではなく、むしろ積極的に開催実施する方法を模索し、実現できた大きな成功事例と考える。  
「コーディネーター養成」についても何とか養成講座を開催し養成実施できた実績は大きいと考える。

(事務局)

コメント

- ・地域によって温度差はあり津波や洪水が警戒されている地域ほど意識が高い。しかしながら、災害は様々であり、大きな被害が無くてもサテライト機能を持っていただく場合も考えられる。そのため、鈴鹿市全体で取り組んでいく必要がある。
- ・養成講座や訓練など、市内福祉施設との連携も視野に入れ講座を開催していきたい。
- ・三重県 DWAT は、大規模災害時に避難所生活を送る要援護者の方々が重度化しないよう医療・福祉専門職の支援を実施する団体であるが、基本的な動きとして鈴鹿市より三重県へ DWAT の要請をすると三重県より三重県社会福祉協議会へ対象地区の派遣依頼が入ることとなっており、直接的な連携としては難しい。しかし、DWAT の理解を深める必要性はあることから、災害ボランティアセンターのスキルアップ講座などで DWAT 養成講座修了生による講話などを取り入れていきたい。

## 基本目標

4

## 地域の困りごとへのアプローチとその対応

## 計画4-1 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の設置

令和2年度 評価

事務局 委員会

4 4

事業内容	地域の皆さんのが抱えている生活での困りごとなど、制度では対応できない課題に対して専門の職員が地域のみなさんや関係機関と協力し解決を目指す。		
単年度目標 (ポイント)	内 容	事務局評価	委員会評価
	① コミュニティソーシャルワーカーの配置に向けた協議をする。  ② コミュニティソーシャルワーカーと行政や専門機関が協力し、困りごとの解決に取り組む。	5  3	5  3
実施結果	<p>① コミュニティソーシャルワーカーの配置に向けた協議をする。</p> <p>配置に向け行政と協議を重ねると共に、すでに配置している伊勢市や亀山市の視察を行った結果、令和3年度に行政と社協に包括化推進員を配置することが決まり、生活課題等の整理や多機関協働に向けた仕組みづくりを行うこととなった。</p> <p>さらに、新型コロナウィルスの影響により生活困窮状態へ陥った方が多くみえ、外国籍の方の不安定な雇用形態等新たな課題が浮き彫りとなり、支援の必要性を目の当たりにした。</p> <p>その中で、制度では対応できない課題解決に向けた取り組みとして「緊急助け愛募金」を実施。その日食べるものが無いような状態の方も多く見えることから、食糧支援を実施した他、子ども食堂等の活動を支援するための助成事業を実施した。</p> <p>② コミュニティソーシャルワーカーと行政や専門機関が協力して、困りごとの解決に取り組む。</p> <p>既存の機関が関わっていても制度で対応できないケースが多く、いわゆる制度の狭間にいる方への支援が課題である。そのため、その都度個別のケース会議を開催し、既存機関の役割を明確にし、同じ方向性で支援が出来るよう調整をした。</p> <p>しかし、様々な制度が縦割りであることから協力が得られず、一部の困りごとに対する支援に留まり、包括的な支援をできないケースが多くあった。</p>		
評価と 今後の課題 (事務局)	配置について、行政と具体的な協議をすることができた。また、既存の制度で対応できない取り組みを実施するなど計画通り推進できたと言える。しかし、コロナ禍の中、他機関との連携については、十分な話し合いが出来たとは言えず、進んではいるものの遅れを感じている。専門職の中でも既存機関の役割が理解されていないことからそれぞれの役割を明確にする必要性がある。		
令和3年度 目標	<p>① コミュニティソーシャルワーカーを令和4年度に配置することを目標に協議を進める。</p> <p>② 高齢者、障がい者、子ども等と言った課題の縦割りをせず、世帯全体の支援が出来るように包括化推進会議を開催し関係機関が連携できる体制を整える。</p>		

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

## 計画4-2 気軽に相談できる総合相談窓口の開設

令和2年度 評価	
事務局	委員会
3	3

事業内容	「相談窓口がたくさんあって、どこに相談したら良いかわからない」という声に対して、ふくしについての相談の入り口となる総合相談窓口の開設に向けて、行政やその他の専門機関と協力し取り組む。						
単年度目標 (ポイント)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>事務局評価</th> <th>委員会評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① ふくしに関する相談に総合的に対応するため窓口の在り方を協議する。</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	事務局評価	委員会評価	① ふくしに関する相談に総合的に対応するため窓口の在り方を協議する。	3	3
内 容	事務局評価	委員会評価					
① ふくしに関する相談に総合的に対応するため窓口の在り方を協議する。	3	3					
実施結果	<p>① ふくしに関する相談に総合的に対応するため窓口の在り方を協議する。</p> <p>総合相談窓口については、鈴鹿市との設置に向けた具体的な協議まで至っていない。</p> <p>しかし、他機関との課題の整理をする中で経済的困窮、社会的孤立といった課題を抱えるケースが多いことから既存の窓口の整理について協議を行った。</p> <p>鈴鹿市に設置されている生活困窮者自立支援制度の窓口を切り口にした相談受付体制の整備を目指し、行政と協議を重ねた。協議の結果、まずは、生活困窮者自立支援制度の窓口機能の向上を目指し、柔軟な対応をすべく、令和3年度より鈴鹿市社会福祉協議会の職員を鈴鹿市本庁に配置することとなった。</p>						
評価と 今後の課題 (事務局)	窓口機能の強化に向けた動きはあるものの、計画に上がっている総合相談窓口の開設については具体的な協議には至っていないことから少し遅れていると言える。令和3年度以降は、生活困窮者に限らず、相談窓口の明確化に繋がる協議をする必要がある。また、相談機関に来られない方への相談体制についても協議をしていきたい。						
令和3年度 目標	<p>① 自立支援機関を中心とした相談窓口の整理を行うため、府内連携が出来る体制づくりのため、研修会を実施する。</p>						

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

(評価推進委員)

コメント

- ・コミュニティソーシャルワーカー(以下 CSW)の配置についてを令和 4 年度に向け具体化できることを希望します。
- ・相談窓口の明確化は必要だと思う。
- ・相談しやすい利用しやすい環境づくりが必要。
- ・制度の狭間にいる人は多い。民生委員児童委員も気にかけているが民生委員児童委員ひとりでは手に負えない。自治会からの情報や福祉委員が必要。
- ・福祉的支援をする上で行政を進めていかなければならないことがたくさんある。
- ・介護支援専門員として受ける相談には介護保険サービスや利用する本人のこと以外の問題も多く、縦割りの支援、制度の狭間の方への支援に悩むことがあります。多重課題、介入困難なケースについてはケアマネジャーが単独で関わるには限界があり、心身の負担も大きくなります。CSW の設置により、幅広い課題に行政や専門機関などの関係者が一体的に関わることができるようになることを強く要望し、早急な実現を期待します。また、介入困難なケースはそもそも SOS が発信されにくいという特徴があることから、アウトリーチ機能を活かしていくことは大変重要と考えます。
- ・市民および専門職の相談に、柔軟に対応していくような体制づくり(窓口の設置)を望みます。
- ・既存の制度で対応が難しいケースもあり、制度の狭間にいる方への支援が課題。高齢者に限らず、障害者、生活困窮者、子供等多様な問題を抱えているケースもあり、福祉の総合相談窓口の設置については急務と考えます。
- ・CSW は、社会福祉協議会に配置されるのでしょうか？又、配置数は何名の予定でしょうか？
- ・生活困窮者世帯内でも、一番の弱者は子どもです。又、生活困窮者世帯における子供の学力は低いとの統計もあります。是非、負のスパイラルを脱却する為の一つの手段として、学習支援を鈴鹿市内でも実施できるよう検討頂きたいです。
- ・市の包括化推進員の取り組みが進めば、「何でも社協へ」が無くなると思います。
- ・市の OB、OG の力も必要になると思います。(各部署をつなぐ)
- ・相談支援包括化推進員による多機関連携等の取り組みが行われている中で、包括的支援体制整備のために、CSW の配置は必要であり、総合相談窓口の設置とともに継続協議を実施いただいている。そのような中、2年度において協議を整え、市の生活相談窓口への社協職員の配置が図られたことは、まず大きな一步

であると考えており、さらに次のステップへ展開をしていくために課題を見つけながら取組を進めていくことが必要と考えます。

・相談窓口の案内を各公民館やセンターで行ってほしい。

・CSWに関する協議を尽くせたことは大きな成果である。実際の相談・解決に向けた諸活動については「包括的支援に至ることの困難さ」を学んだこと自体をむしろ今後に向けた課題が明確化出来たという観点で「大きな成果」として考えたい。

(事務局)

コメント

・総合相談窓口の設置については、新たな窓口を作ることだけでなく、既存の窓口機能を強化することでカバーできることが多く、鈴鹿市にとってどのような方法が良いのか行政と協議していく。

・CSWの配置についての具体的な配置人数、配置場所について現在鈴鹿市と協議中である。

基本目標  
5

多様なニーズのための支援体制づくり

計画5-1 多文化共生を目指す地域活動の支援

令和2年度 評価	
事務局	委員会
5	5

事業内容	鈴鹿市で生活している外国籍のみなさんを支援する団体や、多文化共生の地域活動をサポートする。									
単年度目標 (ポイント)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>事務局評価</th> <th>委員会評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 外国籍の方のくらしの悩みや課題を話し合う場をつくる。</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>② 地域で開催される多文化共生を目的とした地域活動に参加・協力する。</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	事務局評価	委員会評価	① 外国籍の方のくらしの悩みや課題を話し合う場をつくる。	5	5	② 地域で開催される多文化共生を目的とした地域活動に参加・協力する。	5	5
内 容	事務局評価	委員会評価								
① 外国籍の方のくらしの悩みや課題を話し合う場をつくる。	5	5								
② 地域で開催される多文化共生を目的とした地域活動に参加・協力する。	5	5								
実施結果	<p>① 外国籍の方のくらしの悩みや課題を話し合う場をつくる。</p> <p>外国籍の方への支援活動を行う市民ボランティアグループ「鈴とも」定例会(月1回)にて、鈴鹿市で生活する外国籍の方が抱える生活上の悩みや課題について話し合う。</p> <p>令和2年度は、主にコロナウイルス感染症の影響で仕事や子育て等に困っている外国籍の方の支援について話し合いを行った。</p> <p>② 地域で開催される多文化共生を目的とした地域活動に参加・協力する。</p> <p>(SUZUTOMO カフェの開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴とも定例会での話し合いの結果、鈴鹿市新型コロナ対策緊急助け愛募金からの補助を受け、気軽に相談できる場として外国人の方向け相談会「SUZUTOMO カフェ」を開催。</li> </ul> <p>令和2年9月から令和3年3月まで計7回実施(相談者数延べ19名)。相談内容として、コロナウイルス感染症の影響による収入減や仕事の解雇等による生活困窮、親の介護、子どもの引きこもり・不登校等多様な相談を受ける。相談内容に応じて、各種情報提供や専門機関等へのつなぎ支援を行った。また、助け愛募金からの助成金を活用し、相談に来所された外国人の生活困窮者へ食糧やコロナウイルス感染予防グッズの提供を行った。</p> <p>(災害発生時に備えた取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴鹿国際交流協会が実施する「多言語災害ボランティア研修」への鈴ともスタッフの参画。</li> </ul>									
評価と 今後の課題 (事務局)	<p>相談された方が抱える生活上の悩みや課題に対して、鈴ともスタッフと通訳者が各種情報提供や専門機関等へのつなぎを行い、相談内容の解決に向けてサポートが出来、相談者アンケートでも相談して良かったとの声を多数いただいた。</p> <p>相談会に参加された方より、同じ境遇の当事者同士で交流できる場が欲しいとの声が挙がり、交流をメインとした外国籍の方向けのサロンやコロナ禍で思う様に外出等が行えずストレスを感じている外国籍の親子を対象にした講座、相談会(カウンセリング)の開催が必要である。</p>									
令和3年度 目標	<p>① 外国籍の方がくらしの悩みや課題を話し合い交流できる場をつくる。</p> <p>② 地域で開催される多文化共生を目的とした地域活動に参加・協力する。</p>									

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

計画5-2 多職種連携による権利擁護ネットワークの推進		令和2年度 評価	
事業内容			
単年度目標 (ポイント)	内 容	事務局評価	委員会評価
	<p>① 権利擁護ネットワークに関する会議を開催(年3回)する。</p> <p>高齢者虐待や消費者被害、成年後見制度の利用等、権利擁護に関する生活課題を抱えた方への支援を行う機関(法律・福祉・医療・行政)が顔の見える関係づくりと鈴鹿市における権利擁護課題の解決に取り組むことを目的に、「鈴鹿市権利擁護ネットワーク会議」を3回開催した。会議を通じて、専門職向けの研修・事例検討会の企画・開催、権利擁護啓発物(鈴鹿市版エンディングノート)の作成を行った。</p> <p>② 専門職向けの研修・事例検討会を開催する。</p> <p>鈴鹿市権利擁護ネットワーク会議主催で、専門職向けの研修・事例検討会を開催し、権利擁護に関する専門職のスキルアップ、ネットワークづくりを行った。</p> <p>(「福祉職務向け権利擁護入門講座」の開催)            ・開催日:令和2年12月3日(木)、16日(水)            ・参加者数:20名(対象:福祉職で新任の方、権利擁護について基礎から学びたい方)</p> <p>(「鈴鹿市法福官連携権利擁護研修会」の開催)            ・開催日:令和3年3月12日(金)            ・参加者数:32名(対象:法律・医療・福祉専門職、行政職員)</p>	5	5
実施結果			
評価と 今後の課題 (事務局)	コロナ禍であったが、オンライン(Zoom)を活用し、予定通り会議・研修会・事例検討会を開催することが出来た。次年度も引き続き多職種連携による権利擁護ネットワークづくりに取り組むと共に、コロナウイルスの影響による生活困窮者の増加や、少子高齢化の進行に伴う身寄りのない方の増加による身元保証の問題等、権利擁護に関する新しい課題に今後取り組む必要がある。		
令和3年度 目標	<p>① 権利擁護ネットワーク会議を開催(年3回)する。</p> <p>② 専門職向けの研修(スキルアップ)・事例検討会(ネットワークづくり)を開催する。</p> <p>※前年度取り組みを継続する</p>		

5 計画どおり進んでいる

4 おおむね計画どおり進んでいる

3 少し遅れているが進んでいる

2 遅れている

1 ほとんど進んでいない

0 全く進んでいない

(評価推進委員)

コメント

- ・天名地区においてが外国籍の方は数人であり地域に溶け込んで生活をされている。今後のことを考え、情報収集につとめたい。ネットワークについては、地域での横のつながりの大切さを感じており色々な分野の方々から協力が得られる関係づくりをしていきたい。
- ・社協の活動は多くの外国籍の方の助けになっている。
- ・精神障害者の法律上、入院期間が 90 日を超えると別の病院を手配しなければならず家族の負担等を見てきた。困っている人を放っておかない。そんな福祉を目指してほしい。
- ・5-1①外国籍の方にとって、就労以外に生活上の悩みを気軽に相談できる場所があるというのは、その地で安心して暮らしていくための重要なポイントだと思います。また日本人への相談以外に、外国籍の方同士が相談し合える場所があるということも、より一層の安心感につながると思われます。外国籍の方の介護問題、育児問題などが生じたときに迅速に対応していくような仕組みづくりも大切だと考えます。ケアマネジャーなどの専門職に向けて情報を発信していただくことも助かります。5-2①②専門職が対応する課題が複雑化していることから、研修や事例検討などの機会をつくっていただくことは大変ありがたいです。今後も継続していただきたいと思います。
- ・多文化共生を目指す地域活動については、共有の問題意識はあるが「活動」までには至っていないと感じます。当事者が悩みや課題を話し合える交流の場を提供し、専門機関だけではなく地域の住民とも交流できる工夫が必要かと思います。
- ・権利擁護ネットワークの推進については専門職向けの取り組みに終わらず、地域への啓発等もう一步進んだネットワークの構築が必要と感じます。
- ・外国人同士の交流も複雑なのに日本人と交流できるのか…しかしながら同じ町に暮らす人間同士の交流は不可欠です。
- ・多職種間による連携の機会が増え、権利擁護の必要性に関する認識の共有ができつつある。身寄りのない高齢者が増加している中で、これを確実な支援につなげるためにも、引き続き市民への啓発を行うとともに、成年後見制度の充実等を図っていく必要があると考えます。
- ・市内の外国籍の数から行くと協力いただくボランティアが 1 グループでは少ないのでないか。また、コロナ禍で 7 回相談会を開催したことは評価しますが、相談者が 19 名というのでは認知度が低いと思われ、PR 方法などの工夫が必要と考えられます。
- ・「外国籍の方の支援」は「新型コロナ災禍」下だからこそ必要と考えられる活動であり、活動内容のあり方を積極的に協議し、実施したことは特筆に値する。また、権利擁護活動に関しても、WEB 対応をうまく活用する等、事業自体を「単に継続する」だけでなく様々な困難環境下において「いかにして効果的に事業推進していくべきか」その「あり方」を模索しながら実践したことは大いに評価すべきと考える。

(事務局)

コメント

- ・外国籍の方の課題については、ケアマネ支援会議等の議題にするなど当事者だけでなく福祉関係者の理解を深めていきたい。
- ・研修会については、回数目標を設定する。
- ・外国人支援ボランティアについては、社協に登録されているのは 2 団体である。しかし、ボランティア登録は無くとも国際交流協会が把握している支援団体は他に複数あると聞いており、必要に応じて連携していきたい。